

令和7年度福岡市子どもプラザ事業運営団体選考に係る協議会 議事要旨（東区）

- 【開催日時】 令和7年11月12日（水） 13：30～15：10
【場所】 アクロス福岡 601 会議室
【議題】 1 応募団体プレゼンテーション・質疑応答
2 応募内容の審査・評価、意見交換
【出席者】 中村委員長、川上委員、植山委員、田中委員

東区香椎子どもプラザの選考

（応募団体A）

委員：「トラブルが起きた時は、過去の事例を踏まえて対応する」とあるが、どのようなトラブルがあったのか。

応募団体：友人同士のトラブルなどあまり深く立ち入れないような内容の相談を受け、プラザの立場を説明しながらも、共感的な傾聴により対応した事例があった。必要に応じて、区役所などを紹介する場合もある。

委員：「来所目的の多様性に対応する」とあるが、どういうことか。

応募団体：昔は、こどもを遊ばせられる場所というのが主だったが、今は、保護者が友達をつくったり、悩みを聞いてもらえる場所、学べる場所としての役割が求められている。そのため、保護者が学べるような講座をしたり、輪に入っていけない方にスタッフが声掛けしたり、友達が作れるようなイベントを開催したりしている。

委員：講座の時には託児を行うのか。

応募団体：託児は行っていないが、保護者が一生懸命メモを取るような講座の場合は、サポーターに来ていただいたり、スタッフの数を増やしたりしている。サポーターの登録は14人。

委員：近隣の他事業者のプラザに行くことはあるか。

応募団体：東区内のプラザを見学したり情報交換を行っている。利用者に別の子どもプラザを紹介し、他区子どもプラザと連絡をとり連携することもある。

委員：英語と中国語のリーフレットを設置しているとのことだが、韓国の方には、どのように対応するのか。

応募団体：英語で対応している。韓国語リーフレットの必要性は感じている。翻訳アプリは導入している。

委員：利用者からの提言・苦情について、今までにどんな提言があったか。

応募団体:「こどもの手形を取りたい。壁につけている身長計の台に子どもが立ちやすくなるように足のマークをつけてほしい。」などですべて対応している。手形については取るのが大変なので、足形をとるイベントを実施した。

委員:こどもがおもちゃを舐めた場合などの対応はどうしているか。

応募団体:布系のおもちゃは毎日洗濯し、濡れたおもちゃは置く場所を設けて周知している。利用者が少なくなる昼のタイミングで可能な限り見て回り、おもちゃを入れ替えるようにしているが、全てのおもちゃを引くことはできないため、スタッフが拭いて対応している。

委員:ホームページで告知しているイベントで、「要予約で定員 10 名」としているものがあつたが、イベント時に予約していない親子が来たときの対応や予約方法はどのようにしているか。通常遊ぶスペースとの仕切りは設けているか。

応募団体:予約は、来所もしくは電話で受け付けし、新規利用の方には、初回登録の際に説明する。子どもプラザ通信でも電話番号を案内する。

定員に達した場合はその旨告知するが、人数把握のため定員を設けている場合もあり、必ずしも全て断るわけではない。遊び場との仕切りは設けず、リトミック等は予約の方から前の方に座るようにし、予約をしてない親子は後ろの方で混ざってイベントに参加する場合もある。講座の時、大きなおもちゃは片付けする旨をSNSで告知している。

委員:走り回るこどもには、どのように対応しているか。

応募団体:スピードが出ないように、おもちゃの配置を工夫し、スタッフが声掛けしている。

委員:キャラクターのおもちゃは置いているか。

応募団体:いただいたものなどで少しあるが、たくさんは置かないようにしている。新しく買うおもちゃでキャラクターものを選ぶことはしていない。

委員:今年度より、地域子育て相談窓口の実施により子どもプラザの相談対象として小学生も含まれることとなったが、子育て支援コンシェルジュの負担は大きくないのか。

応募団体:地域子育て相談窓口のお話をいただいたときは、乳幼児の専門である子育て支援コンシェルジュでは弱い部分があるのではと考えたが、年代問わず様々なスタッフがいるので相談が来た際には柔軟に対応できていると思う。ただし、小学生の悩みも多様化・複雑化しているので、現在持っている知識だけではなく、様々な研修に出て学んでいきたい。

(応募団体B)

委員：ご自身の経験などを活かしてという視点で、子どもプラザを実際に利用してみて、どのように感じたか。

応募団体：香椎子どもプラザを利用した経験がある。ちょっとした相談をしたい、同世代の子どもたちがいる場所で遊ばせてみたいという気持ちで利用した。スタッフの方が温かく、心の安らぎになった。運営側になった際は、お越しいただく皆様に温かい気持ちになっていただけるようにしたい。

委員：利用は、実際は2歳までが多い。提案内容のイベントや行事等が、上の年齢の子向けのように感じるが。

応募団体：毎月定期的に関わっているイベントでは、3歳未満児向けの場所づくりを行っている。

委員：おもちゃの消毒についてどのように考えているか。

応募団体：消毒液で消毒し、布製の場合は洗濯や天日干しをする。タイミングは閉館後に全てのものを消毒するイメージ。

委員：職員の配置計画について、採用済みとあるが、まだ事業は始まっていない。既に採用されているのか。

応募団体：採用と記載しているのは、承諾済みという意味。多言語スタッフも同様。

委員：事業計画として毎月6つずつほど講座を挙げているが、この中から1~2つほど実施予定という認識で間違いないか。

応募団体：その通り。それとは別に相談会は毎月開催する。

委員：「夏祭りに関して教育関係の学生のボランティアの協力」とあるが、既に学校と計画しているのか。

応募団体：既に別事業で実施している大規模イベントでは、学生ボランティアが毎回100名近く参加しており、学生ボランティアとのつながりがある。ボランティア費用は無償。

委員：避難訓練、防犯訓練について。今実施している訓練があるか。具体的にどのように実施するのか。

応募団体：緊急時はスタッフ共通認識のもと対応できるようにしたい。訓練内容については、市の行う講習などから教わりたい。

委員：「利用者の混雑をさせるため、事前予約制を取り入れる」とあるが、子どもプラザは通常予約不要の施設だが、どのように考えているのか。

応募団体：通常利用の利用者に対して、予約制を実施するわけではなく、イベント時に午前・午後で分けるなどを想定している。

委員：「多文化家庭などそれぞれのニーズに基づき」「保護者のニーズ調査に基づいたプログ

ラム」とあるが、どのようなニーズを想定しているのか。

応募団体：まだ不明なところもあるが、SNSや利用者アンケートでニーズを把握したい。アンケートは、運営開始後に実施予定。

委員：おもちゃの種類、イベント内容など様々あるが、どこに重点を置きアンケートをとるのか。

応募団体：細かく項目を分けず大きな項目で行うイメージ。結果に応じて、ある程度のニーズに沿った企画内容、相談対応を行う予定。コミュニティ運営の中で、グレーゾーンの問題や、相談してよいのか迷っている方が増えていると感じるので、その辺りを察知し対応できるようにも考えていきたい。

総評

応募団体Aに関して

- ・ 毎年ブラッシュアップされ、保護者に寄り添った非常に細やかな運営が評価できる。
- ・ 父親向け取組みの内容も評価できる。地域に根差して活動できており、これまでの実績を活かし今後の活動にも期待ができる。
- ・ 他区・他市の子どもプラザから学ぶ視点を積極的に持ち、運営に活かしていくことを期待したい。
- ・ 相談対応時の他機関との連携の充実や、イベント時の告知の工夫などについても期待したい。

応募団体Bに関して

- ・ イベントの経験値があり、意欲的で、新しい視点や発想が見受けられることは、評価できる。
- ・ 利用者同士の交流・子どもと保護者の関わり、親の不安や悩みなど、日常に目を向けた具体的な取組みや運営方針があることが望ましい。
- ・ 利用者のニーズを把握した上で、実施内容の提案があるとより説得力があがる。イベントと日常的な取組みをどのように組み合わせるのかなど、提案内容の充実に期待したい。
- ・ 他区・他市の子どもプラザを積極的に見学し、提案内容の参考にされたい。